

保安装置（EB-N装置）が機能しない状態で列車を走行させた事象について

2023年12月18日（月）、運転士が保安装置の一つであるEB-N装置が機能しない状態で列車を走行させていたことが判明しました。また、その後、1名の運転士からEB-N装置が機能しない状態で列車を走行させていたことがある旨の申告がありました。

ご利用のお客様に大変ご迷惑、ご不安をおかけすることとなりお詫び申し上げます。

1. 判明日時

2023年12月18日（月）12時27分頃

2023年12月26日（火）12時00分頃

2. 概況

2023年12月18日（月）12時27分頃、宝殿～加古川間の上り回送電車を運転する運転士が、宝殿駅停車中、力行ノッチ（自動車のアクセルに相当するハンドル）を握った際に違和感を覚え、確認したところ、力行ノッチの握り部にあるEB-N装置（※1）のスイッチにテープが貼られているのを認めました。調査を行ったところ、回送電車の前運用である快速電車（※2）の担当運転士から、草津駅停車中に、急な腹痛に備えてテープを貼って米原駅まで運転していたとの申告がありました。

その後全運転士に対して確認を行ったところ、2023年12月26日（火）に1名の運転士から、夏頃と11月に、指に痛みが生じるためEB-N装置のスイッチに輪ゴムをつけて運転したことがある旨の申告がありました。（※3）

なお、運転データの確認において速度超過や信号冒進はありませんでした。

※1 「EB-N装置（緊急列車停止装置）」とは、保安装置のひとつで、列車の走行中に、運転士が力行ノッチ、ブレーキハンドルのそれぞれに設置したスイッチを両方離れた瞬間にブザーが鳴動し、そのまま上記いずれかのスイッチを扱わなければ、5秒後に自動的に非常ブレーキが作動するものです。

※2 12月18日上り快速電車 網干（5:06）発 米原（8:45）行、8両編成 お客様：約600名
（EB-N装置が機能しない状態で走行した区間は、草津（7:59）から米原までの45.5kmです）

※3 11月25日下り快速電車 野洲（20:48）発 網干（23:54）行、12両編成 お客様：約700名
（EB-N装置が機能しない状態で走行した区間は、尼崎（22:16）から網干までの90.5kmです。
当日は、ダイヤ乱れのため40分程度の遅れが生じていました。）
夏頃の列車については、特定に至りませんでした。

3. 原因

運転士がEB-N装置のスイッチをテープ等で固定したためです。

4. 再発防止策

全運転士に対し、

- ・今回の事象を周知するとともに、保安装置の重要性の指導を実施します。
- ・体調不良時の取り扱いの再徹底を行います。

（参考）テープ等で固定されていた状況のイメージ

